



大宮地本見解発出する!

職場からたたかい抜いた6年間!

この悔しさを胸に、暗黒の未来に立ち向かおう!

2016年7月10日投開票の第24回参議院選挙は、悔しい結果だった。野党共闘としてのたたかいは、1人区で野党は11勝（21敗）したことに対しての評価はある。しかし、終わってみれば、自民党が56議席と圧勝し、公明党も14議席を確保した。おおさか維新の会の7議席を加えれば、改憲勢力は77議席を獲得。非改選の無所属議員のうち改憲賛成の4人を加えると、自公プラス改憲勢力が参院で3分の2を確保し、「戦争の出来る国」に向けた下地が整った。このことに強く危機感を持たなくてはならない。今後も「憲法改悪阻止・憲法9条堅持」の大きなうねりを創ることが急務な課題である。

私たち大宮地本はこの6年間、「たしろかおる」と共に安全で安心した鉄道創りを目指しグリーンスタッフの正社員化の取り組み、駅係員への暴力問題、工務職場の行き過ぎた外注化による技術継承の問題など多くの問題を国会の闘いと連帯して鉄道の未来のために奮闘してきた。また多くの市民・団体と連帯し、平和・人権・民主主義を守り抜くためたたかいを共に創りだし連帯の輪を拓けてきた。我々は、この選挙戦を通じて多くの組合員と職場での総対話行動、常駐などを通じ「期日前投票」を求め、組合員に妥協の無いたたかいをやり抜こうと議論したしろと共にたたかい抜いてきた。また20代、30代の若者たちは、雨の日も、酷暑の日も街頭に立ち、自らの言葉で市民に訴え、今参議院選挙が歴史の大きな転換点であることを訴えてきた。やるべきことは全てやりきり、この選挙戦をたたかい抜いてきたが、職場からの奮闘むなしく、あと一歩のところまで惜敗に終わってしまった。

私たちはこの現実を受け止め、悔しくともよくよしている暇はない! 与党は衆院ですでに3分の2を確保している。これでいよいよ、自民党憲法草案の実現を目指した改憲が現実味を帯びてくる。安倍首相はテレビで慎重姿勢を見せていたが、その真実を私たちは見抜かなくてはならない。

全組合員の皆さん!

時代はまさに暗黒の時代に突入した。この状況を突破していくためには、組合員と共に職場からたたかいを創り出し、厳しい現実を突破していかなくてはならない。今職場は、要員問題、超勤問題、各種委員会、マイプロ活動により、安全が脅かされ、輸送・サービス品質の低下を招く問題が山積みである。「たしろかおる」と共に創りだした政策を前面に押し出し、これまでと同様に闘い抜こうではないか! 「戦争への道」に突き進み憲法改悪を目論む安倍政権にNOを突き付け、これからも「抵抗とヒューマニズム」を根底に立ち向かおうではないか! この6年で築き上げた成果を基に光輝く未来をつかみ取ろうではないか!

2016年7月13日

東日本旅客鉄道労働組合
大宮地方本部執行委員会

**6年間のたたかいで強化された組織を基に
「抵抗とヒューマニズム」を根底に未来を掴み取ろう!**